

チューナー黙示録

●連載第33回

ターボは基本的にエアの流れが性能を決定する

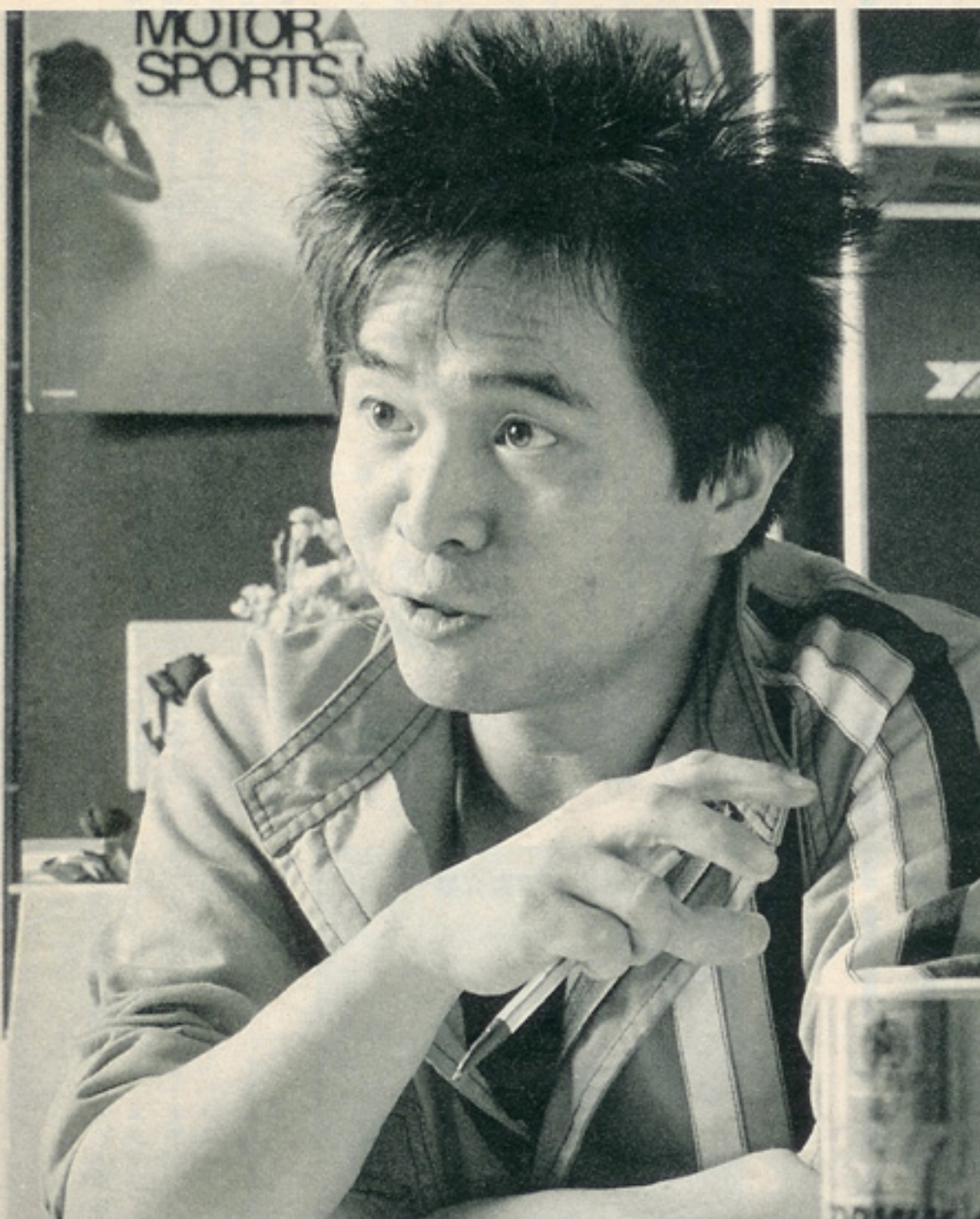
ターボ車ブームは、もともとメーカーが仕掛けた。そして最近、セラミックターボやツインターボも登場した。メーカーのチューニングが進んでいる。金に糸目をつけない開発だ。チューニングショップがいくらがんばったところで、メーカーの資本力と技術には及ばない。チューニングはメーカー主導型になっているといえる。

それだからこそ、いいかげんなショップは成立しない。へたをすると、ノーマルのままのほうが調子がいいという事になりかねない。ショップの競争が激しくなっている。ほんとうに実力のあるショップしか相手にされないし、名前だけでは通用しない。

トライアルの牧原道夫さんがチューンした3&Zは、307・9 km/hのレコードを打ち立てている。国産チューニングカーにとって、オーバード300 km/hはひとつの壁といわれていた。しかし、最近では、300 km/hは壁ではなくなりつつある。

ひと息ついている間に、気がついたら追い越されている——そんな激しい闘いが繰り返されているのだ。絶えず研究を続けていると、すぐにおいていかれる。牧原さんも、そのキビしさを肌を感じているという。チューニングするのに、特別な秘訣はない。コツコツと積み重ねるしか手はない。

牧原さんは、ターボのエアの流れに注目した。エアチャンパーでエアが詰まっている。ノーマルのエアチャンパーはそんな状態だ。エアチャンパーの中の仕切り板に



トライアル 牧原道夫

オ	1	力	を	3	の	3	国
1	ボ	!	マ	ℓ	チ	0	産
バ	の		1	Z	ユ	0	チ
1	エ	チ	ク	は	1	km	ユ
3	ア	ユ	し		ニ	/	1
0	の	1	た	3	ン	h	ニ
0	流	ナ	°	0	グ	は	ン
km	れ	1	ツ	7	シ	壁	グ
/	に	の	イ	・	ヨ	と	カ
h	注	牧	ン	9	ッ	い	1
を	目	原	タ	km	プ	わ	に
達	し	道	1	/	、	れ	と
成	、	夫	ボ	h	ト	て	っ
した	模	さん	で	の	ライ	いた	、
のだ	し	は	0	コ	ア	ル	最
°	：	、	0	1	の	の	高
	：	タ	馬	ド			速